

診療科・所属施設横断型アレルギー診療教育システムの構築

Establishment of an education system for allergy care across departments and affiliated facilities

慶應義塾大学医学部内科学教室（呼吸器）

助教 正木克宜

研究期間

令和4年4月1日～令和6年3月31日

研究の概要

令和4年度から5年度にかけて、9つのアレルギー疾患のテーマに関するウェブ講演会を実施し、講演内容のアーカイブ動画をYouTubeに限定公開とした（令和6年4月時点での再生回数付記）。

講演①：令和4年9月1日（293回）

テーマ：アレルギー疾患のプライマリ・ケア

講演②：令和4年11月30日（65回）

テーマ：気管支喘息と吸入支援

講演③：令和4年12月15日（53回）

テーマ：食物アレルギーと関連トピック

講演④：令和5年2月8日（221回）

テーマ：臨床アレルギー検査

講演⑤：令和5年3月22日（185回）

テーマ：アレルギー免疫療法

講演⑥：令和5年9月27日（225回）

研修医・医学生のためのアレルギー総合診療スキルアップセミナー2023<診察編①>

講演⑦：令和5年11月10日（107回）

研修医・医学生のためのアレルギー総合診療スキルアップセミナー2023<症例検討編①>

講演⑧：令和5年12月13日（169回）

研修医・医学生のためのアレルギー総合診療スキルアップセミナー2023<診察編②>

講演⑨：令和6年1月31日（108回）

各回におけるライブ視聴者数は100-200人に達した。また、研究代表者が委員を務める免疫アレルギー疾患研究10か年戦略若手タスクフォース（ENGAGE-TF）の協力を得て、同団体が主宰す

るアレルギー総合診療のメーリングリスト（ML）（<https://www.engage-tf.jp/mailling-list>）に講演参加者を案内し、任意で登録した。

本助成の継続申請時点から現在に至るまでにおいて、同メーリングリストの登録者は1,100人から1,500人に増加し、本邦における最大規模の診療科・所属施設・職種横断的な情報共有を目的とした教育のプラットフォームとなった。

また、日本アレルギー学会の機関誌『アレルギー』に原著論文を公表した。（正木克宜，他．アレルギー領域における診療科・職種横断的リカレント教育の重要性：「出前授業による教育の機会創出事業」参加者データの分析．アレルギー 2024. in press）。以下に論文要旨を記載する。

【目的・方法】

ENGAGE-TFは学会支援下に慶應義塾大学、福井大学と連携した複数回のバーチャル教育企画「出前授業」を企画した。そのニーズと有用性を検証するため、SNSや各大学・医師会等を通じて周知し、MLを用いてアンケート調査を行った。

【結果】

のべ1139人・回より回答を得た。半数以上が専門医以外の医師であり、幅広い医療関連職種も参加した。7割が「とても満足」、6割以上が「ちょうどよい」難易度と回答した。自由記載の感想から、職種毎の学びの焦点、経験年数による学びのスタンスの違いが見られた。

【考察・結語】

9割を占める専門医以外の参加者のプライマリケアにおけるアレルギー疾患対応ニーズの高さと、経験11年以上の医療関連職種の遠隔教育・リカレント教育の有用性が示唆された。